

2 かさんの「2020 MFJ 北海道エンデューロ選手権の見どころ楽しみどころ」

— 公認レースを中心に —



新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、軒並み中止・延期されていた道内のオフロードレースなのですが、6月になってようやく北海道エンデューロ選手権（全道戦）の暫定スケジュールが発表になりました。

当初、全道戦は全6戦7ラウンドの実施が予定されていましたが、イベント関係の自粛によりスケジュールが変更され、第1戦のルスツ戦と第2戦のヒーローレーシング大会(夕張)が中止。また9月に予定されていた JEC（ジャパン・エンデューロ・チャンピオンシップ）北海道大会の会場が、諸般の事情により、日高町からルスツ村の BIGBEAR に変更されました。

これにより今年の全道戦は、全日本の2ラウンドを含む全4戦5ラウンドの開催となり、会場も夕張を除く4ラウンドがルスツの BIGBEAR で行われることになりました。

つい1ヶ月程前までは開催出来るのかどうかモヤモヤしていた全道戦ですが、ようやく日程や会場が決まって、今後どんなレースが展開されるのか？というところに興味に移ってきたようですね！

■昨年のレース状況

昨年の全道戦は全6戦7ラウンドが行われました。参加した選手数は年間延べ141人。出場回数は延べ434回になりました。7ラウンド全てに参加した選手は7名と自分が想定していたよりも少なかったのは意外でした。全道戦の参加クラスの格付は、その年のレースで獲得したポイントによって MFJ が決定しています。

7 ラウンド全てのレースに出場して、クラスのランキングトップになった選手や、最初から好成績を出し続けて、5 ラウンドのみの結果でトップになった選手もいました。また僅か一ポイント差で上位クラスへの昇格を逃した選手もいました。

ここで道内の選手達が今どのような感じになっているのか、興味があったので自分なりに分析してみました。方法は単純で、昨年のルスツ（最終戦）のベストラップタイムを抜き出して、上から順に並べてみたけなのですが、結果は以下のとおりで、10 番手以内に NA クラスが 3 人もいることには驚きました(^);

◇1～10 番

1 前田孝志(IB)/2 中江優介(IB)/3 佐藤裕二(IA)/4 三本松陽介(IB)/5 佐伯竜(IA)/6 伊藤智耶(IB)/7 北谷智実(NA)/8 木口雄介(IB)/9 松山武史(NA)/10 田崎一磨(NA)

◇11～20 番

11 奥谷雅夫(IB)/12 北村久志(IB)/13 小山孝尚(IB)/14 久保田実(IB)/15 大石尚人(NB)/16 宮崎慶太郎(IB)/17 鈴木隆浩(NB)/18 松村繁幸(IB)/19 伊原巧(NA)/20 小熊剛彦(NA)

◇21～30 番

21 清水雄一(NA)/22 渋谷卓司(NB)/23 山田直樹(IB)/24 大友秀樹(IB)/25 菊池領(NB)/26 伊藤聖春(IB)/27 秋元洋(NA)/28 佐藤剛(NA)/29 小松大亮(IB)/30 沖中祐輔(NB)

◇31～40 番

31 高見智代(NB)/32 吉川弘幸(NB)/33 松山哲也(NB)/34 小林智(NA)/35 白神政博(NB)/36 福田雅美(NB)/37 梅田正人(NB)/38 齊藤佑輔(NB)/39 吾田誠(NB)/40 中村雅志(NB)

◇41 番～

41 澤渡武士(NB)/42 村上卓弥(NB)/43 高橋輝志(NB)/44 吉田共哉(NB)/45 渡瀬聡雄(NB)/46 落合和雄(NB)/47 辻匡人(NB)/48 高橋敏(NB)（※括弧内は今年のクラス分け。最終戦に出ていない方は除いています。）

■2020 年度のクラス別選手の顔ぶれ

既に今年の全日本と北海道エンデューロ選手権シリーズの指定ゼッケンが発表されていますので、クラス別に選手達の顔ぶれを見てみたいと思います。なお今年は申請昇格・自動昇格を含めて該当者全員が昇格しています。

● I A クラス（インターナショナル A クラス）

I A クラスでは、20 佐伯選手と今年新たに昇格した 32 佐藤選手のお二人の名前が掲載されています。



（佐伯選手）



（佐藤選手）

全道戦における IA クラスの参加者は非常に少なくここ数年は 1～2 名で推移しています。今年は IA クラスにもシリーズポイントが集計され、年間ランキングの表彰対象にもなるようなので、お二人を含め多くの IA ライダーの参加により、全道戦をさらに盛り上げて欲しいところですね。

●IBクラス（インターナショナルBクラス）

IB クラスには、今年はざっと 20 人以上が名を連ねています。

106 前田選手、114 伊藤聖春選手、117 小谷選手、121 宮崎選手、125 重富選手、128 木口選手、131 竹内選手、140 中江選手、141 伊藤智耶選手、142 小山選手、153 奥谷選手、154 大友選手、155 松村選手、156 小松選手、157 堀選手、158 北村選手、159 三本松選手、160 山田選手、161 源治選手、162 池上選手、163 久保田選手、164 高見選手

IA クラスへの昇格枠が 1 枠しかないこのクラスは、非常にレベルが高く、走りも安定しています。僅かなミスで順位が入れ変わることもあるので、全道戦の一番の見所となっています。



（前田選手）



（宮崎選手）



今年は昨年の 7 ラウンドに全戦参加した 106 前田選手や 121 宮崎選手、114 伊藤聖春選手の 3 人を含む 19 人に、NA クラスから新たに昇格した 140 中江選手、141 伊藤智耶選手、142 小山選手が加わってレースが展開されます。

140 中江選手と 141 伊藤智耶選手は、昨年同じ NA クラスで全ラウンドを戦っているのですが、3 位以下を全く寄せ付けず、常に 2 人で 1 位と 2 位を争っていたライバル同士です。

下位クラスでありながら、毎回 IA 並かそれ以上の成績を出しているこの二人と、今年 3 月の広島大会にも参戦し着実に実力アップに努めている 106 前田選手や、久々に全道戦に参戦を予定している 164 高見選手、そして他の IB の選手達がどのようなレースを繰り広げていくのか、とても興味深いところですね。

（↑ライバルの中江選手の後ろでチャンスを狙う伊藤智耶選手）

●NAクラス（ナショナルAクラス）

IB 昇格への登竜門となる NA クラスは、数年前に承認 B クラスを整理して新たに創設された公認クラスで、毎年 3 人ずつ増えています。（IB へ 3 人昇格出、NB から 6 人が昇格入）。

このクラスは人数も少なく、昨年、全ラウンドに出場した 309 清水選手や 311 佐藤剛選手のほかに、312 伊原選手や 314 大場選手、315 秋元選手、343 田村選手、344 美田選手らがいます。



（清水選手）



（佐藤選手）

今年は NB クラスからの自動昇格で、322 田崎選手や 323 小熊選手、324 北谷選手、325 飯田選手、326 松山選手、327 山下選手が加わっています。

この中で 324 北谷選手、326 松山選手、322 田崎選手の 3 人が、昨年のルスツ（最終戦）でベストテン入りのラップタイムを出しています。



（田崎選手）



（北谷選手）

またこのほかにルスツの最終戦には出ていないものの、第 1・第 2 ラウンドで総合ベストラップタイムを出して優勝した 325 飯田選手がいます。

飯田選手はかなりの実力を持っているのですが、ライセンスの更新切れのため、昨年から NB クラスで全道戦に参戦しています。



新旧入り混じった選手達が、今年どのようなレースを展開するのか、この NA クラスの展開もとても面白そうですね！

(飯田選手)

●NB クラス (ナショナル B クラス)

NB クラスは速い選手や女性選手、初めて公認レースに参加する選手などが入り乱れる玉石混淆クラスです。毎年突如として IA や IB クラスよりも速い選手が出現するのもこのクラスです。昨年このクラスで全ラウンドに出場したのは 450 齋藤佑輔選手だけでした。

このクラスでは毎年上位 6 人が NA クラスに昇格するのですが、昨年、413 鈴木選手は 1 ポイント及ばず NA クラスへの昇格に届きませんでした。今年はこの悔しさをバネにして頑張っ欲しいですね。



(大石選手)



(鈴木選手)

さて、このクラスを分析してみると、455 大石選手 (15)、413 鈴木選手 (17)、447 渋谷選手(22)、449 菊池選手 (25)、445 沖中選手 (30)、451 高見選手 (31)、457 吉川選手(32)、421 松山選手(33)、427 白神選手 (33)、422 福田選手(36)、450 齋藤佑輔選手 (38) となっています。



このクラスには全日本のレディースクラスの 451 高見選手や 422 福田選手、462 飯田選手がいます。

451 高見選手は年々速くなっているようで、今年はどんな走りを見せてくれるのか楽しみです。

(←高見選手)

この外に今年は八剣山のスノーライディングのチャンプでお馴染みの三盃選手がニューマシン YZ250FX で参戦すると聞いています (本人談です)。三盃選手は先月の栗丘で開催されたガルル戦

で準優勝しており、畑が異なるエンデューロコースでどのような走りを見せてくれるのでしょうか。また三盃モーターズのチームからは、この外にも浅田選手をはじめ 3 人の選手が参戦すると聞いており、今年の全道戦がますます面白くなってきました(^^)

■今年のレースをどう戦うか！

さて、新型コロナウイルスの影響で例年と比べてレース回数や会場が変わった今年の全道戦なのですが、今年のレースで「上位クラスへの昇格を目指す」ということを考えると、留意しておかなければならないことがいくつか思い浮かびます。

●全戦出場のための日程確保

まず一つ目はレースに出場するための自分自身の日程確保についてです。



今年は昨年までのレース日程と異なって、全 4 戦 5 ラウンドに減っています。

成績は数試合を戦って良いスコアを残す昨年の抽出方式ではなく、5 ラウンド全てのポイントが対象となります。

今年、上位クラスへの昇格を確実に狙うためには、とにかく全戦出場することが必須であると思います。

●天候やコースに合わせた準備が必要

二つ目はレース前の準備についてです。

今年は全5ラウンドのうち4ラウンドがルスツのBIGBEARで開催されます。



この会場を雨の日に走った方は十分ご存じだと思いますが、アップ・ダウンが多く、雨が降ると牧草混じりのマディが半端なく選手を苦しめて、かなり過酷なレースになります。

お金がかかる話ですが、とにかくタイヤ選びには手を抜かない方がベターです。



レース当日の天候によってタイヤを替えたり、パンクしない程度に空気圧を調整するようなことが、勝敗を分ける大事なポイントになります。

またコースが広い牧場なので、コースマーカーを見落としてミスコースをしたり、不用意に深い轍ややっかいな笹藪にはまってしまうなど、一瞬のミスで順位が入れ替わってしまいます。パンクやプラグカブリ等のマシントラブルは仕方がないにしても、ガソリンを入れ忘れてガス欠になるようなことだけは無いように、そして万一のためにプラグレンチなどの最低限の工具を身につけるなど、事前の準備をしっかりと行っておく必要があると思います。

●オンタイム制のルールを理解

三つ目はオンタイム制のルールについてです。

4 ラウンドのうち9月の全日本2 ラウンドと10月の最終ラウンドは、オンタイム制により実施されます。



オンタイム制の場合、テストコースまで向かうルート区間は決められた時間で走らなければ、早く着いても、遅く着いても1分以上のペナルティが課せられます。

オーバルなコースをグルグル周るレースが得意な選手やオンタイム制のような決められた一定区間（テスト区間）を集中して全速で走ることが得意な選手、悪天候での過酷なレースが得意な選手など、色々な選手がいると思いますが、テスト区間で数秒差で一番の成績を出しても、リエゾン区間の早着によりペナルティを受けて順位を落としたりしないよう、事前にオンタイム制のルールをしっかりと理解しておくことをお勧めします。

特に9月のレースは全日本選手権なので、ルールは細かいところまで厳格に処理されます。

ルートのコースも普段とは違って全日本に合わせた難易度の高いものとなることが予想されますので、トラブルで遅着した場合の対処法などを事前にしっかり研究しておく必要があると思います。



（全日本クラスの走りは見応えがありますよ！！）

●今年は軽量ハイパワーなモトクロス車両が選択可能

四つ目は車両の選択についてです。今年レースが開催される夕張や BIGBEAR のコースは、クローズドコースなので、公道走行に必要なウインカーやスピードメーターなどの保安部品を付ける必要はありません。もちろん安全走行をするための車検は行われます。

エンデューロマシンから不必要なものを取り外して軽量化を図ったり、ハイパワーで軽量なモトクロス車両を選択したりすることも可能なので、今年は色々悩みどころが多いかもしれませんね！

<< 最後に >>

今年、シーズンを通して全戦出場して毎回それなりの成績をキープしておく事ができれば、速くても一戦欠場した選手よりは昇格への道が近くなるかもしれません。

勝負は時の運と言いますが、運も実力のうちだと言われます。とにかく一戦一戦が勝負。参加される選手の皆さんには是非とも楽しく見所のある全道戦を戦って欲しいと願っています。私もカメラを持ってあちこちに出かけますので、レース会場でお会いしたときはよろしくお願いします。

By 2 さん



(昨年の夕張戦で最終週のゴール間際で痛恨のガス欠になり、順位を落とした小山選手！)

◎ 7月19日(日)にルスツ BIGBEAR で開催される「北海道エンデューロ選手権第1戦ヒーローレーシング大会」のエントリーが始まっています。締め切りは14日(火)ですので忘れずにエントリーしてくださいね！

<http://www.jmpsa.or.jp/block/hokkaido/race/e12294.html>